



まこと館だより



Est.1912

発行：至誠学舎立川 編集：法人事務局

理事長閑話 うめ草④

～元号「平成」が終わる～



思いおこせば昭和 63 年、1988 年の後半から昭和天皇のご容態の悪化が報じられ、何時訃報が報じられるか国民の心がとても不安であった事を思い出します。それまでラジオの NHK は深夜 0 時で放送を終了していましたが、終夜静かなクラシック音楽を流し、“もしも”の時に備える終夜放送となりました。

その時は 1989 年 1 月 7 日午前 6 時半、87 歳でのご逝去でした。自動的に昭和は終わり、その日の午後、当時の小渕官房長官から見事な墨書で認め^{した}た新元号、「平成」を手に発表がありました。私はその時、たまたまテレビを見ていたのでその場面を良く覚えています。「平らかに成る」いい年号だと感じました。

その後、好評だった終夜放送がベテランアナウサーの静かな語りの「ラジオ深夜便」として現在まで続いています。夜、眠り難い中高年者の心に寄り添う番組です。

元号は時代を表す歴史の一場面を象徴している感じがします。たとえば、坂の上の雲、筋骨たくましい近代日本をイメージさせる「明治」、竹久夢二に代表されるロマンと自由主義の時代「大正」、そして前半 1/3 は暗く重い戦争の時代、そして後の 2/3 は復興と繁栄の「昭和」、いま平成の 30 年が終わろうとしています。後世この時代はどのような時代だったといわれるのでしょうか。少なくとも繁栄の時代ではなく、ダウンサイジングの時代「平成」といわれるのではないのでしょうか。人口の急な減少がその基です。

元号が最初に使われたのは西暦 645 年の「大化」です。そして 701 年「大宝」、708 年「和銅」、729 年「天平」と歴史の節目の元号です。1334 年「建武」、1467 年「応仁」、1573 年「天正」、江戸幕府が始まった「元和」は 1615 年と続き 1685 年「元禄」、1891 年「天保」、1865 年「慶応」で 260 年の江戸時代 35 の元号が定められました。そして明治以後は一世一元となり現在につながります。長い日本の歴史です。次の元号は何となるのでしょうか。いい元号、いい時代の到来を心から念じます。

明仁平成天皇様、今上天皇として最後のお誕生日のお言葉、感動いたしました。本当にご苦労様でした。

理事長 橋本正明

事業本部長メッセージ



新年明けましておめでとうございます。

平成 31 年、西暦 2019 年の幕が開けました。といたいところですが、今年は 5 月以降の元号が未定ですから平成 31 年は 4 月までということで、ちょっと不思議な感じの新春となりました。

迎えた新年は「亥」年です。ちなみに亥は、猪肉の栄養価が高く病気予防になることから、無病息災の象徴とされています。風水でも猪は、無病息災の象徴で、また目標に向かって猛進していく **人を助ける**「火の神の化身」とされています。まさに、人や社会を幸いにする福祉の年ともいえます。今年は障がい事業の拠点施設の建設が計画されています。目標を見据えてぶれることなく、法人の理念「まことの心」を旗印に法人・事業が真っ直ぐに進んでいく年になれば何より幸いです。



高齢事業本部長 旭 博之

事業本部情報

♥児童事業本部♥

新年あけましておめでとうございます。平成最後のお正月が明けると、いよいよ障害福祉事業総合化推進計画に基づいた新施設建設が本格的に動きだします。至誠ホーム内のケアプラザの跡地に3階建てのGH併設多機能型事業所（定員GH10名、多機能型事業所40名）の建設が開始されます。3階部分はGH、2階部分は、現在のまことくらぶ（就労継続支援B型事業）の移転と新規事業となる生活介護事業を並行して行う多機能型事業所となります。

また1階部分は事務所機能並びに多目的ホールで、法人、地域の皆様に利用して頂けるスペースを備えています。次年度にまたがる2ヶ年計画となるこの事業の実現に向けて、猪年にふさわしく計画推進に職員共々丸となって取り組んで参ります。

今まで以上に法人内の皆様方のご協力やお力添えをお願いし新年のご挨拶とさせていただきます。本年もどうぞ宜しくお願い致します。（ワークセンターまことくらぶ 施設長 阿久津嘉代子）



♥保育事業本部♥

初春の候、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。本年も宜しくお願いいたします。亥年生まれの方は、裏表がなく何事にも熱心で且つ、やり遂げる情熱があるそうです。また、いのししは神の使いでもあるといわれていて、強運な人が多いそうです。法人に亥年の方は何人ぐらいいらっしゃるのでしょうか。強運を引き寄せてほしいですね。

さて、誰かに言葉をかけてもらおうと、心の痛みが和らぎ、折れそうな心が奮い立ったりするものです。言葉には不思議なパワーがあります。保育事業本部では12月の賞与に合わせて上司が部下に労をねぎらうメッセージを贈り、一人ひとりの仕事の成果を確認したり、新しい自分を発見する「四つ葉メッセージ作戦」を行いました。言葉は手に取ることはできませんが、言葉のパワーで心が温かくなり、仕事へのエネルギーになってくれたのではないのでしょうか。働き方改革は事業計画の重要項目です。アイデアを出しながら、働きやすい職場作りを考えて参ります。（保育事業本部/事務局長・万願寺保育園/園長 長谷川育代）

♥高齢事業本部至誠ホーム♥



2019年、新しい年を迎えました。

今年は4月に新施設「オンニ」が開設・スタートします。嬉しく幸せなことです。

しあわせについて、今から想えば「何でもないことが幸せだった」という風を感じています。

中学校・高校・大学そして就職。父親からはお前は長男だから浪人や留年をできないぞ。家庭の計画（ライフサイクル）が狂うと。母親からは、内申書に影響するから喧嘩はしちゃダメと言われおとなしくしていました。

やがて結婚して家庭を持ち、「ところてん」のように押し流されて 次々にそれぞれのステージを渡りついて行きました。子供たちもいろんな塾へ行ったり、受験したり、その頃は家族全体がそれぞれの目標に向かって動いていました。TDLへ沢山行ったりしていましたが、そのうち私は猛烈サラリーマン、24時間戦えますと動いていました。

今はどうやって暮らしていいか、何を幸せと感じていいかと悩みます。何も考えずにやっていた方が楽だったのかもしれない。いやいやそんなこと言ったら「罰」があたりますかね。

今は外国から来日した技能実習生や留学生の仲間といろいろなやり取りしながらやっています。みんなの名前を覚えるのも大変です。ベトナムから来たヒェウ、バオ、トゥイ、アン、タオ、フェン、トン、ハニ、マイ。スリランカから来たリヒニ、サンドゥニ、チャトゥー、シルニ、ドゥランジ。1月からはベトナムからタオが来る。合計15名。

新しい仲間と共に新しい幸せを暮らします。（高齢事業本部 事務局長 金井裕一）

本部事務局だより



新しい年を迎え、元号も変わるので夢のある話をしたい。

最近の良いニュースの筆頭は、夢の新薬であるガン免疫薬「オブジーボ」の開発に貢献した本庶佑京都大学特別教授がノーベル賞を受賞したことではないだろうか。ガンに苦しむ多くの人々に夢を与えた。また本庶先生は、得られるノーベル賞の賞金と特許料収入も含めて、若手研究者の人材育成のため、長期にわたる給与と研究費を支援する「数百億～1000億円規模の基金」を設立すること発表している。これも若い研究者に夢と希望を与えるものである。更に、高額なオブジーボの治療対象となるガンの範囲が拡大され、薬価も1/4位に引き下げられ、患者に夢を与えた。発売元の小野薬品は、長年の夢であったオブジーボビル（東京本社）を建てた。儲かっているのである。だが、残念なことに小野薬品は、本庶先生の要請にもかかわらず基金への出資を拒んでいる。

確かに「海の物とも山の物ともつかない研究レベルの種アイデア」を薬にまでしたのは小野薬品であるから、儲けることに異論はない。しかし、企業は社会貢献によって世の中に夢を与えるべきと思うのは私だけの夢だろうか？（法人事務局 局長 野島忠幸）

<編集後>あけまして、おめでとうございます。本年もどうぞ宜しくお願い申し上げます。今年は亥年。いいスiiiスタートを!!そして…ちょっとずつ(猪突)猛進して参りたいと思います。(NET引用)